

向こう1か月間における主な病害虫の発生動向は次のように予想されます。

農作物名	病害虫名	発 生 程 度	
		現 況	予 想
きゅうり	うどんこ病	並	並
	褐斑病	並	並
	ミナミキイロアザミウマ	並	並
	コナジラミ類	やや少	やや少
トマト	黄化葉巻病	並	並
	コナジラミ類	並	並
	ハモグリバエ類	少	少
いちご (本圃)	うどんこ病	並	並
	炭疽病 (<i>G.cingulata</i>)	並	並
	アブラムシ類	並	並
	ハダニ類	並	並
	ハスモンヨトウ	やや少	やや少
ブロッコリー	べと病	並	並
	コナガ	並	並
	ヨトウムシ類	並	並
	オオタバコガ	やや少	やや少
	アオムシ	やや少	やや少
レタス	灰色かび病	並	やや多
	菌核病	やや多	やや多
	オオタバコガ	並	やや少
かんきつ	ミカンハダニ	やや多	やや多

【発生予報】 本文の()内は平年値

きゅうり

1. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

11月上旬の巡回調査(6筆)の結果、発病葉率は7.8%(4.8%)、発生圃場率は50.0%(61.8%)であった。

2. 褐斑病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

11月上旬の巡回調査(6筆)の結果、発生を認めなかった(発病葉率0.1%、発生圃場率5.2%)。

3. ミナミキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

1 1月上旬の巡回調査(6筆)の結果、寄生葉率は0.6%(0.0%)、発生圃場率は11.1%(1.6%)であった。

4. コナジラミ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

1 1月上旬の巡回調査(6筆)の結果、寄生葉率は3.3%(8.0%)、発生圃場率は66.7%(72.8%)であった。

トマト

1. 黄化葉巻病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

1 1月上旬の巡回調査(10筆)の結果、発生を認めなかった(過去8カ年平均発病株率0.0%、発生圃場率3.1%)。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 発病株の早期発見に努め、見つけ次第抜き取り適正に処分する。また、ハウス内の雑草は病原ウイルスおよび媒介虫の発生源になるので除去する。

イ ハウス内のタバココナジラミの防除を徹底し、密度を極力低下させる。

2. コナジラミ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

1 1月上旬の巡回調査(10筆)の結果、寄生複葉率は2.4%(寄生株率2.4%)、発生圃場率は50.0%(40.4%)であった。

3. ハモグリバエ類

(1) 予報内容

発生程度 少

(2) 予報の根拠

1 1月上旬の巡回調査(10筆)の結果、発生を認めなかった(被害株率5.5%、発生圃場率54.7%)。

いちご

1. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

1 1月上旬の巡回調査(27筆)の結果、発生を認めなかった(発病株率0.1%、発生圃場率2.8%)。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 罹病葉や不要な下葉はできるだけ除去し、圃場外へ持ち出し、処分する。
- イ 薬剤は、古葉等を除去処分した後に、葉裏や下位葉にもむらなくかかるように十分量を散布する。
- ウ 薬剤耐性発達防止のため、同一系統の薬剤を連用しない。

2. 炭疽病 (*G.cingulata*)

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

1 1月上旬の巡回調査(27筆)の結果、発病株率は0.0%(0.0%)、発生圃場率は3.7%(6.5%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

発病及び枯死した株は、伝染源となるので見つけ次第速やかに圃場外に持ち出し、圃場周辺に放置しない。

3. アブラムシ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

1 1月上旬の巡回調査(27筆)の結果、寄生株率は1.8%(1.9%)、発生圃場率は25.9%(21.8%)であった。

4. ハダニ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

1 1月上旬の巡回調査(27筆)の結果、寄生株率は1.8%(2.1%)、発生圃場率は18.5%(22.2%)であった。

5. ハスモンヨトウ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

1 1月上旬の巡回調査(27筆)の結果、食害株率は1.7%(4.0%)、発生圃場率は33.3%(49.1%)であった。

ブロッコリー

1. ベと病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

1 1月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(5ヵ年平均 発病株率0.1%、発生圃場率3.3%)。

2. コナガ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

1 1月上旬の巡回調査(12筆)の結果、寄生株率は4.3%(5ヵ年平均4.5%)、発生圃場率50.0%(5ヵ年平均45.0%)であった。

3. ヨトウムシ類 (ハスモンヨトウ、ヨトウガ)

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

1 1月上旬の巡回調査(12筆)の結果、ハスモンヨトウの発生は認めなかった(5
カ年平均 寄生株率3.0%、発生圃場率35.0%)。

また、ヨトウガの寄生株率は3.3%(5カ年平均2.8%)、発生圃場率は25.0%
(5カ年平均29.2%)であった。

4. オオタバコガ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

1 1月上旬の巡回調査(12筆)の結果、寄生株率は0.3%(5カ年平均0.7%)、
発生圃場率は8.3%(5カ年平均13.3%)であった。

5. アオムシ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

1 1月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(5カ年平均 寄生株
率0.9%、発生圃場率11.7%)。

レタス

1. 灰色かび病

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 1 1月上旬の巡回調査(15筆)の結果、発生を認めなかった(発生を認めない)。

イ 向う1か月の降水量は多い見込みであり、本病の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

薬剤散布は、下葉の基部にも薬剤が十分に付着するよう丁寧におこなう。

2. 菌核病

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 1 1月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病株率は0.0%(0.0%)、発生圃
場率は13.3%(2.2%)であった。

イ 向う1か月の降水量は多い見込みであり、本病の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

薬剤散布は、下葉の基部にも薬剤が十分に付着するよう丁寧におこなう。

3. オオタバコガ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

1 1月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(寄生株率0.3%、発
生圃場率6.4%)

かんきつ

1. ミカンハダニ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

11月上旬の巡回調査(36筆)の結果、寄生葉率は11.8%(6.1%)、発生圃場率は58.3%(51.0%)であった。

【参考】

気象 (平成24年11月9日発表 1か月予報 福岡管区気象台)

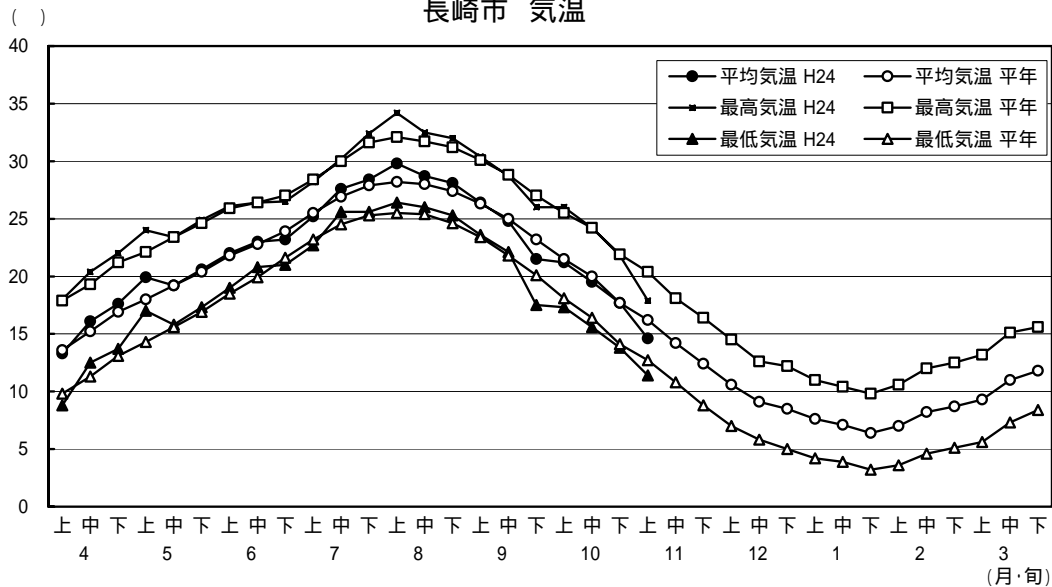
要素別確率

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	50	30	20
降水量	20	30	50
日照時間	40	40	20

予報対象地域：九州北部地域

平成24年度の気象経過 (長崎海洋気象台)

長崎市 気温



長崎市 降水量と日照時間



病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「防除所ホームページ」 アドレス：<http://www.jpnp.ne.jp/nagasaki/>

この情報に関するお問い合わせ

長崎県病害虫防除所 TEL：0957-26-0027